



～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

「食べる事」

人間は口に何かを入れないと生きていけない。

生まれてから死ぬまで、それが続く。

普段、当たり前のように食事をしていると気が付かないが、考えてみると、人生何回の食事をするのだろうか？

1日3回、1年で約1000回。

70歳まで生きたとしたら7万回。

凄い回数 of 食事である。

ここに酒などの飲み会まで入れて考えたら、内蔵もよく頑張っていると思う。

この様に食事をするだけでも、莫大な労力を使っている事になる。

生きていくという事は、どれだけ大変な事なのだろう。

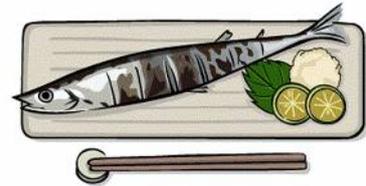
毎回毎回、生きていく為に食事を考え、口に運ぶ。

ただ単に同じものばかりだと苦痛に感じてしまう。

だから食事でも、なるべくなら美味しくなるように、いろいろな食材や調理に心がける。

他の動物なら毎回、同じ物を食べても大丈夫だろうが、人間はそうはいかない。

ある意味、人間とは不便な生き物である。



人間の持つ複雑な感情が、食事にも繋がっているに違いない。

甘い、辛い、苦い、酸っぱいなどを感じ、その味覚を楽しむに変え、死ぬまで続く食事の苦しみを乗り越えているのではないだろうか。

目、耳、鼻などからは自然に景色や臭い、音などが入ってくる事がある。

しかし、口だけは自らが調達し、運ばないと味はわからない。

いろいろな味を知るという事は、大変である。

生きる事=食べる事。

そう考えると、毎回の食事でも当たり前食べるのではなく、神経を集中し、しっかり味わうようにしたい。

そして、感謝の念を持ち、楽しく食べるように心がけなければならない。

さあ、今日の食事はどう楽しくしようかな。